

投稿論文の募集のお知らせ

Japanese Psychological Research 特集号

“Adolescence”

(思春期)

特集号編集者 高橋 史 (信州大学) <f_taka@shinshu-u.ac.jp>

佐藤 寛 (関西学院大学) <satokan@kwansei.ac.jp>

投稿締め切り

発行 (予定)

2019年4月30日 (火)

2020年4月

Japanese Psychological Research, Vol.62, No.2

テーマ

子どもと大人の間位置する思春期は、変化に富んだ時期であり、さまざまな心理社会的問題が生じやすい時期でもある。思春期の生活環境も、時代を経て変化している。発達の軌跡は一樣ではなく、個人差が大きく、理解が難しい。それは、思春期において何らかの一般法則を見出そうとする研究の難しさを予期させると同時に、そうした研究が紡ぎ出す一つひとつの努力の価値を表している。

思春期の応用社会科学は急速に発展している。保健医療、福祉分野では、思春期の精神疾患に対する心理療法が次々と提案され、その効果が実証されている。教育分野では、学力向上だけでなく、物質使用や危険な性行為を含む問題行動の予防プログラムの重要性が認識されはじめている。そうした応用研究の背景に、心理学および関連諸領域の基礎的知見の積み重ねがあることには疑いがない。生物学的成熟、脳の成長、心理学的発達、対人関係の変化など、思春期に経験する内的または外的変化に焦点を当てた研究は、世界中で大きな注目を集めている。

こうした世界の潮流をふまえて、本特集号では、思春期に焦点を当てた心理学および関連諸領域の論文を広く募集する。概ね10~22歳のヒト、またはその年代に相当するヒト以外の動物を対象とした実証的研究であり、ヒトの思春期の心理学的理解に寄与する論文であれば、あらゆるテーマが本特集号の対象となる。また、思春期に関する近年の心理学研究の動向や方法論に関するレビュー論文も大歓迎である。

論文の種類

1. Original Article

原則として、問題提起と実験、調査、事例などに基づく研究成果、理論的考察と明確な結論をそなえた研究。新たな実験装置や解析プログラムの開発、新たな心理測定尺度の作成やデータベースの構築など、研究の遂行に有用な方法、技術およびデータに関する報告も含む（掲載時 12 ページ以内;1 ページ当たり約 700 words, 8,400 words まで。表題、要約、図表、引用文献を含む）。

2. Brief Report

すでに公刊された研究成果に対する追加、吟味、新事実の発見、興味ある観察、少数の事例についての報告、速報性を重視した報告、萌芽的発想に立つ報告。（掲載時 8 ページ以内;1 ページ当たり約 700 words, 5,600 words まで。表題、要約、図表、引用文献を含む）。

3. Review

心理学の最近の重要テーマについて、研究状況、主要成果、問題点等を解説し、研究の意義と今後の課題を論じる（掲載時 24 ページ以内 ; 1 ページ当たり約 700 words, 16,800 words まで。表題、要約、図表、引用文献を含む）。

投稿先

公益社団法人日本心理学会 Japanese Psychological Research 投稿ウェブサイト

https://jpa.bunken.org/jpa/user_logins/jp/ (投稿システム URL) (2018 年 10 月より変更予定)

<https://psych.or.jp/publication/JPR/> (日本心理学会 HP)

<https://onlinelibrary.wiley.com/journal/14685884> (Wiley Online Library)

※投稿論文には、特集号への投稿論文であることを必ず明記してください。

執筆・投稿の手びき 2015 年改訂版

投稿に際しては、日本心理学会執筆・投稿の手びきを必ずご参照ください。

<https://psych.or.jp/publication/inst/>

投稿された論文については、公益社団法人日本心理学会編集委員会にて、2019 年 12 月末までに採択・不採択を決定する予定です。

問い合わせ先

高橋 史 (信州大学) <f_taka@shinshu-u.ac.jp>

佐藤 寛 (関西学院大学) <satokan@kwansei.ac.jp>

公益社団法人 日本心理学会事務局編集部 <jpaednew@psych.or.jp>